

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212P105	基礎看護学実習 I (看護の対象理解とコミュニケーション) (Fundamental Nursing Practicum I)	専門教育科目 基礎看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	1	前	集中	佐藤祐貴子, 清村紀子, 原田千鶴, 野上龍太郎 安藤敬子 (福祉健康科学部) 他 内線: 5031 Email: haraguti@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

本科目は、病気や障害、加齢による健康問題のために生活に支障がある対象との直接的な関わりを通じて、家族・地域・集団・社会の中で生活を営む人間としての対象の理解を深める。また、対象と学生間の相互のコミュニケーションを体験し、望ましい人間関係について考える。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 対象と自分 (学生) の間の相互の関わりを体験し、望ましい人間関係について言語化できる。		○					
2. 生活を営む人間としての対象を理解する。 1)対象の生活背景 (発達段階、病気や障害の様子、ライフサイクル) を描写できる 2)対象の生活がどのように支えられ、営まれているかを言語化できる。	○						
3. 実習での体験を通しての学びと今後の自らの課題を言語化できる。							○

【授業の内容】

1. 実習期間: 令和5年7月下旬~8月上旬の5日間
2. 場所: 大分大学医学部附属病院、別府リハビリテーションセンター、九州大学病院別府病院、井野辺病院、大分赤十字病院、国東市民病院 (*国東市民病院のみ宿泊を伴う)
3. 実習スケジュール

日程	内容
7月上旬	実習オリエンテーション (学内)
7月下旬	手洗い演習、コミュニケーション演習、施設別実習オリエンテーション (全て学内)
臨地実習	・臨地実習 ・学内実習 (実習報告会準備)
実習最終日	実習報告会, 実習評価面接 (全て学内)

【アクティブラーニングの内容・その工夫】

対象者の生活の場に赴き、実習指導者の指導のもと対象者に直接かかわる。またカンファレンスや実習報告会を通して体験を振り返り、学びを深める。

A: 知識の定着・確認	○	事前学習課題、既習科目の復習	・既習の学修内容を踏まえ、実習を体験し概念化を行う。
B: 意見の表現・交換	○	ディスカッション	
C: 応用志向	○	カンファレンス	
D: 知識の活用・創造	○	臨地実習	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	既習の学修内容を復習する (5h) 事前学習課題 (「実習施設」「対象者の思い、対象者との関わり、理解する視点」) を個人およびグループでまとめておく (3h)。
事後学修	対象者との関わりを振り返りながら、記録用紙を用いて対象の理解を深めるとともに、実習で体験したことを言語化する。(10h)

【教科書】教科書を指定しない。

【参考書】参考書を指定しない。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
実習記録、カンファレンス、レポート	80%	○	○	○
実習貢献度・態度の評価	20%	○	○	

【注意事項】・実習中に知り得た対象者の情報は決して口外しない。(守秘義務)

・通学は原則公共交通機関を使用する。実習に必要な費用として、交通費、場合によっては宿泊費の負担がある。

【備考】・学生生活案内を参考に、実習に支障のないようにアルバイトや部活等を事前に調整しておく。

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験		看護師：佐藤祐貴子，清村紀子，原田千鶴，野上龍太郎，安藤敬子 他 保健師：安藤敬子
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		看護師
実務経験をいかした教育内容		臨床での豊富な経験をもとに、臨床での看護学実習における療養生活を営む人間としての対象の理解対象と学生間の相互のかわりを支援する。
授業形態		面接授業